

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念を利用者の方に説明して、色塗りをし頂き、玄関に掲示している。</p>	<p>今後は運営推進会議の助言を頂きながら、地域にホームの理念などを盛り込んだお便りも回覧していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>定例会やその他随時、理念に対する管理者の思いや方針を職員に伝え、ケアにあたるよう話している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族にはお便りや、訪問時など折にふれパンフレットの掲示やその説明などをさせてもらっている。</p>	<p>まだまだ十分ではないので今後はプライバシーに十分気をつけ地域向けの情報誌の発刊を併設事業所と協力して行いたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩時、地域の方から声を掛けてくださるときがある。とても嬉しくこちらからも職員共々明るく挨拶するようにしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会主催の行事(どんど焼き、盆踊り、側溝掃除、作品展、料理講習会)や高齢者大学「あやめ学級」などにも参加し、気楽に話し掛けて頂いている。</p>	<p>今後も地域の一員として仲良く助け合いながら交流していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>高齢者大学参加時、施設見学コースにいれてもらったり、GHの話しをさせて頂いた。</p>		<p>運営推進会議に町内会から参加して頂けたので今後は何かできることがないかを話し合い、取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者会議や定例会時に説明し、意義を理解している。又、職員全員で自己評価の取り組みもしており、問題点、改善へ向けての話し合いをしている。</p>		<p>定例会時に一つ具体的な項目を取り上げ、それについての意見を出し合うなどの演習にも繋げていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営委員の方々より率直なご意見・要望・助言を頂いたり今後の活動への広がり期待できると感じている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者にお便り、運営推進会議議事録など報告し、適宜連携を図っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>お便りに簡単に制度を記載したり、職員にも毎年研修を受けてもらい定例会の場でも報告し、勉強をしている。必要な方には冊子を渡したり、掲示している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>GH内で虐待についての定義や研修会にも積極的に参加し、職員全員が把握できるよう話し合いの場を設けた。更に心理的な虐待にも充分注意するよう話している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に管理者が内容を分かりやすく丁寧に説明をしている。又、ご利用者の状態変化による退居などに関しても充分にご家族と話し合い、行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より、ご利用者からの要望、不満などが言いあえる環境であり、職員と改善に向けての支援をしている。</p>		<p>運営推進会議で外部の方へご利用者の意見、要望などが述べられるよう機会を設けていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>体調の変化、病院への受診、身の回りの生活物品の補充など気付いたことがあるときは常に連絡している。</p>		<p>ご家族との連絡を怠らないようにしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置、定期的にご家族にはがきによるサービスアンケート、面会時・受診時などにホーム側から何か要望ないかなどを持ちかけたりして意見が出やすい工夫をしている。又、</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に、あるいは必要に応じて個別の面談を行い、運営に関する職員の意見を聴き取っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は、基本的にシフトに入れず緊急時の対応ができるようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や交替は必要最小限に抑え、利用者や職員、家族と職員との間に馴染みの関係と信頼関係が築けるよう努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部での研修に職員が受講できるように計らい、定例会にて研修の報告を行い研修内容を共有している。		職場内での勉強会として、一つ具体的な事例での演習を毎月行い、職員全体のスキルアップを目指していきたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他施設への見学や交流を通じて、他事業所の意見等もとりいれてサービスの向上に活かしている。		今後も交流の機会を積極的に持っていきたい。地域でのネットワーク作りも各方面に働きかけ、立ち上げていきたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	定期的に、あるいは必要に応じて個別の面談を行い、業務上の悩みや職場に対する思いを聴き取り、職員のストレスの軽減を図っている。又、その要望や意見を働きやすい職場作りに活かしている。		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	定期的に勤務の考課と自己評価を実施し、職員の勤務状況の把握に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	何かがあったなとすぐ気付けるようにご利用者の日々の生活状況を把握できるようにしていく。		ご利用者の様子を日々職員間で情報共有していきたい。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	ホームを見学して頂いた際や事前面接の場などでご家族とよく話し合い、その中でご家族の要望の実現と不安の解消に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急を要する場合や相談を受けている中で必要としているサービスがGHでなくても他事業所や包括支援センターなどへ対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者、ご家族の不安な点などよく話し合い、他利用者とのコミュニケーションが取れるような配慮をし、慣れるまではご家族の協力を頂いたりもしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はご利用者が人生の大先輩であるという事を忘れずに接している。又、家事などをする際にも一緒に教えて頂くという姿勢を大切にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加して下さる事への感謝と認知症進行への不安や苛立ちなども受け止め、信頼関係を気付くような努力をもっとしていきたい。		ご利用者だけでなくご家族の気持ちにも十分な支援態勢をとっていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者とご家族の良い関係が継続されるよう、面会・受診時などに積極的に写真などを見ながら話題の提供を支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	趣味の外出や図書館で本を借りるなど今までの習慣を大事に継続できるよう、ご家族と相談しながら支援している。友人・知人の訪問も多い。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の関係を把握し、意見の食い違いなどには職員がさりげなくサポートし、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>利用終了後もご本人に関わることなどで連絡をとり、話し合いや相談できる体制をとっている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご利用者一人ひとりの思いや希望、どのようにして暮らしたいかを日々の会話などから把握するようにしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式を利用し、ご家族やご利用者の聴き取りにより馴染みのあるご本人らしい生活の継続を支援している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>健康状態、表情などの観察を怠らず、安心して自分の力が発揮して頂けるよう環境を整備している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族からの情報や日々の生活に関わっている複数職員から課題や本人の意向を把握し介護計画に反映している。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じ見直しを行い、対応できない変化や緊急の必要性が出た場合にはただちに見直しを行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、観察記録、バイタル票、受診記録を日常の記録とし、他に介護要約など個別のサマリーとして入院時などの情報としてまとめている。業務日誌にはサインをし、共有している。		大事な気づきが全員に共有していないことが時々あり、この点を見落とさないような方法を一緒に考えていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携はとっていないがご家族の状況に応じて都合が悪い時の通院や入・退院時の送迎・付添いサービスなどを柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館主催の高齢者大学参加、図書館の利用、消防署員による救急救命講習や避難訓練などを行っている。ボランティアも継続してきて頂いている。		消防訓練時に地域住民の方々と避難訓練・消火活動を行い、交流を継続していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状態により訪問理容師をお願いしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターとの関係を図ることができた。権利擁護などの相談が包括支援センターや社福協でもできる旨もご利用者・ご家族にお伝えしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常それぞれのかかりつけ医への受診はご家族にバイタル表や状況をお話ししてお願いしているが、随時柔軟に対応し職員が受診することもある。又、それ以外にかかりつけ医が併設事業所に週2回の往診があり、急変時往診対応を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームで受診している医療機関全てが認知症専門医とはいえないが、他には有田病院などに相談する対応している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設する事業所の看護師から支援を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者が入院時に付き添い、状態変化の経緯やお薬などの介護要約情報の交換、お見舞いなどで安心して療養できるように支援、退院時のカンファにも同席している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期のあり方については、契約時にお話ししている。		重度化に伴う意思確認書の作成や、ホームとしての対応できる指針を明確に文書にしておきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	認知重度化してもご利用者・ご家族の要望に添えるようにしているが、認知症以外の疾患で恒常的に医療行為が必要な場合は適切な医療機関や介護老人福祉施設を紹介するなどの対応をしている。		在宅医療に熱心な医師、24時間対応可能な看護ステーション、ご家族の協力、ホーム側の質の向上とがあってできるものであると考えるが、今後、環境を整え方向性は対応できるように取り組みたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出身地GHへの移動があったが顔馴染の職員が多く情報提供などもスムーズに行われた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者一人ひとりを尊重し、その人にあったふさわしい言葉かけや対応を行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご利用者の判断能力や意思表示方法に応じて希望や苦情が言えるように声かけしたり、好きな飲み物の選択や自由献立の内容などの意見や希望に沿って支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日常のおおよその時間は決まっているが、入居者の1日のペースに合わせてゆったりした支援を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>かかりつけ美容院や割安な美容院、他にも訪問理容師などの選択肢があり、ご利用者の希望に応じてご家族や職員がその都度対応している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者個々の力を生かしながら、買物、下ごしらえ、盛り付け、テーブルセッティングなど活躍できる場面作りをし、職員と一緒にゆっくりと食事を楽しんでいる。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>居室にお茶道具を揃えている方、皆さんと一緒に楽しめる方、自分だけのおやつもご家族よりお預かりしたりとさまざま。お酒も自分で購入されているが体調を考慮し、適量を随時お渡ししている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	起床時間が遅かったり、清潔への介護拒否もあるが、気分良く排泄支援できるようにしていきたい。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お一人お一人の希望で入浴し、状態により介助が必要な時は職員の手を借り、ゆったりくつろいで頂けるよう支援している。又、足浴などの支援も行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動状況を検討したり、適度な室温調整や落ち着いた環境への支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや繕い物、又はしりとりと聞くと笑顔で参加されたり、得意料理をご馳走してくれたりといろいろな場面で参加できるようさりげなく環境整備をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理をされ、自由に買物をされている方、それ以外でもご家族からお預かりした中から小額をお財布に入れての買物同行も支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	新聞とりや回覧板回し、草とり、日常的に散歩や買物、図書館や地域の行事、外食などにも出かけられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	高齢者大学での施設見学や個別でのクラス会への参加、他市道場への趣味の会などの支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて電話や手紙の投函などの支援をしている。又今年押し花で年賀状を作成した方が住所録の確認などでポストに出せるような支援を行った。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	遠方の子供さんが泊まられたり、いつでも気軽にご家族や友人、知人の方々が面会に来られている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を毎年受講、それを定例会での勉強会につなげている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関は施錠しない方針であり、安全確認やさりげない付添いなどの支援をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事務所の位置が日中ご利用者の気配が聞こえる場所にあり、台所フロアの職員とさりげなく分担できている。夜間は居室の巡回及び気配がわかる居場所に位置している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などは手の届かない場所で保管している。消火器や廊下に飾ってある花瓶などもご利用者の状態によっては注意しなければならない為職員がさりげなく動きをつかんでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ご利用者の状態を把握して、個々にどのようなリスクがあるのかを職員全員が共有し、事故防止に努めている。事故報告も速やかに市に提出し、改善策の検討会を開いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習会が年2回行われパート含む全員が受講している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと年2回の避難訓練、消火作業訓練を行っている。		次回から地域の皆様にも避難訓練に参加して頂けるよう働きかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時などに現在の状態や日々変化もある様子に付け加えて、新たに起こりうるリスクについて説明し、理解して頂けるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの毎朝のバイタル記録、顔色、行動などを良く観察し、その変化にもいち早く気付き、対応できるよう日頃より職員に話している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬袋に薬名、効用などを記入。服薬前には2重のチェックである確認をしている。又必ず確実に飲んだかの確認もしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の摂取や運動、野菜を多く取り入れた献立を考え、便秘予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの支援をしており、夜間は義歯洗浄を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々のバイタル表に食事摂取量、水分摂取量を記載し一日の水分量の少ない方には摂取しやすい工夫を行っている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>援助する方、促し見守りする方それぞれに応じ、支援している。</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>新鮮な食材を使う。台所用具は洗浄、乾燥、消毒を行っている。職員、ご利用者も手洗いの徹底を図っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>一般家庭の構えであり、親しみやすい玄関には菊の鉢やプランターの花が出迎えてくれている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室と茶の間、台所の他にウッドデッキがあり明るい光が差し込み、布団干しやプランターでの野菜作りと大活躍をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自分の部屋で音楽を聞いたり、好みの椅子やソファ、座椅子などの居場所が大体決まっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く過ごせるようにご家族にもお願いし、馴染みの物を持ち込んでおられる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	まめな換気を行い空気の入替えを行っている。又夜間時の巡回時にも室温チェックなどをし、居心地よい居室への支援をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全部がバリアフリーではなく、掘りごたつに上がったり降りたり of 動作も日常生活でのリハビリになると考え、安全な動作を支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所への動線にテープを貼ったり、大きな文字で表示したり of 工夫をする事で、一人で間違えずにトイレまで行けるようになったこともあった。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	四季の移ろいを感じたり、プランターの水遣り、草とりなどをそれぞれが行っている。		